

～教員おすすめ本～

No. 26

理工学部 教養・基礎教育部門
河野 英二



『ゲンロン0 観光客の哲学』

東浩紀 著

【先生からのコメント】

スマホと SNS の時代にふさわしい連帯のあり方を探りたい人の指針となる思想書です。著者はゲンロンという会社を立ち上げ、同名の批評誌を刊行している人物。さまざまな分野で活躍する人々と対談してその動画を配信したり、ツイッターで呟いたりする活動も展開中です。

発言の拠点を自前で確保しつつ、興味のおもむくまま遊歩を重ね、その過程をライブで公開して予想外の出会いつなげる — そのような実践を導く理論が「観光客」（およびそのアイデンティティのよりどころとなる「家族」）というキーワードでまとめられています。現代世界の政治状況の見取り図としても有益です。



『帰ってきたヒトラー』

ティムール・ヴェルメシュ 著
森内薫 訳

【先生からのコメント】

ヒトラーがタイムスリップして 2011 年のベルリンに現れ、一人称で見聞を語るというタブー破りの趣向で大きな話題になった風刺小説。ナチス・ドイツの世界観をなぞった攻撃的な発言が高度なブラックユーモアとみなされ、彼はテレビの人気芸人になります。やがてフェイクと現実は区別がつかなくなり、そこに現代ドイツ（ひいては世界全体）の直面している問題が浮かび上がります。ネットの影響という主題を拡大させた映画版もおすすめです。

2018 年 11 月 16 日
近畿大学中央図書館